

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

2023～2024年度クラブ目標

創立1986年

『みんなが楽しい ロータリー』

会長 佐藤幸彦
幹事 村上堅二



世界に希望を生み出そう

2023～24年度国際ロータリーテーマ

第1784回例会

令和5年11月30日(18:30～19:30)

○ソング

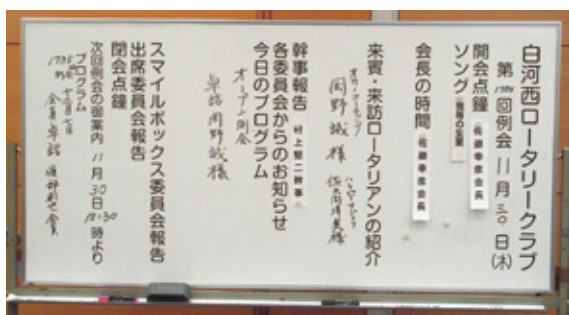
- 我等の生業

○ビジター

岡野誠様、ハッピーマジック 佐久間清美様

○スマイルBOX

- 佐藤幸彦会長（岡野誠先生、本日は卓話ありがとうございました。佐久間清美様ようこそ。）
- 村上堅二幹事（本日は岡野様ありがとうございました。是非とも参考にさせていただきます。それから明日から新しいジムのオープンになります。こちらも是非遊びに来て下さい。）
- 金田昇会員（もうすぐ師走、めっきり寒くなりました。岡野様卓話ありがとうございました。）
- 永野文雄会員（ゲストの岡野誠様、卓話ありがとうございました。）
- 運天直人会員（岡野様、本日は卓話ありがとうございました。人材を生業としている渡しにはとても勉強になる話を頂きました。本当にありがとうございました。）
- 宮本多可夫会員（寒くなりました。岡野様卓話ありがとうございました。大変参考になりました。）



▶第1784回例会出席状況 (R5年11月30日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	54名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	68名
Ⓒ ①の出席者数	22名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓔ ②の出席者数	13名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓔ (メイクアップ補填後の出席会員数)	35名
Ⓕ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓔ)	67
Ⓖ = Ⓖ / Ⓕ × 100 (例会出席率)	52.2%



▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



佐藤幸彦会長

皆さん、こんばんは。まず初めに、本日の先生をまず紹介させていただきます。岡野誠先生でございます。岡野先生は我がロータリー二回目ということでございますので、後程卓話のほうよろしくお願ひしたいと思います。もうひとつかた「ハッピーミュージック」の佐久間清美さんでございます。佐久間さんは岡野塾の門下生ということで、後程簡単に自己紹介をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。毎回つまらない話で恐縮なんですけど、だいぶ寒くなってまいりました。皆さん、軽油、トラックなんかで軽油入れるかと思うんですが、軽油は凍るという話をご存じでしょうか。実際にあった話なんですけど、関東で軽油を満タンにした車がスキー場に行ったら一晩置いたところ、次の朝エンジンがかからない。原因がまるっきりわからなかったんですけど、軽油が凍ったということなんですね。関東で満タンにしてこちらに来ると、関東で売っている軽油というのは凍結温度が違うんですね、この辺で売っている軽油と。軽油は普通、一般的にはマイナス5度で凍ると言われてるそうでございます。軽油は5種類ありまして、特1号、1号、2号、3号、特3号とありまして、凝固点が違うということで、冬場はこの辺は凍結温度の低い軽油を販売されておりますので、私たちがこの辺で給油して乗ってる分には全然問題はないということでございます。またガソリンについてですが、ガソリンはマイナス100度が凝固点ということだそうですので、自然界では凍らないということでございます。ところが、皆さんハイオクとレギュラーの違いはわかるかと思うんですが、ガソリンにも夏用冬用の違いがあるというのはご存知でしょうか。夏は気圧性が低いガソリンを販売してる。冬は気圧性の高いガソリンになってるそうでございます。

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー第2回

諸橋和典会員



本日は、今回の1784例会は今年度始まってちょうど第20回目の例会になります。なんとか私も皆様のご協力を得ながら20回もったなあというのが実感でございます。あと残り27回ありますので、なお一層の皆さんのご協力とご支援をいただきながら、あと27回の会長職を務めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。一点連絡事項を忘れてました。IMが当初お知らせしてたのが2月3日でありましたが、2月4日に変更になったという連絡がございましたので、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。もう一点、新年会でございますが、昨年度は3ロータリー別々にやられた新年会なんですけど、来年の新年会は、1月23日。これ火曜日になるかと思うんですが、3ロータリー合同で新年会をやるということに連絡が入っておりますので、ご報告しておきます。以上を持ちまして、会長挨拶といたします。本日もよろしくお願ひいたします。

■幹事報告

村上堅二幹事

- 白河赤十字奉仕団委員長 安澤莊一：令和5年度「NHK海外たすけあい」キャンペーン実施にかかる街頭募金への協力について
- 会長 浅田豊久：『バギオたより』配布のお願い
- ガバナー 右近八郎、地区大会実行委員会委員長 渡辺健寿：地区大会参加の御礼
- 職業奉仕委員会委員長 齋藤純一：第二回阿久津塾「寛容塾」再度の案内と地区HPについて
- 福島民友社：広告掲載紙
- 全国ロータリークラブ野球大会大会事務局：第39回全国ロータリークラブ野球大会参加・不参加のお願い
- 福島民報社：令和6年度（2024年度）新年紙面広告ご協賛のお願い
- 福島民友新聞社：年賀 新年のご挨拶、新聞広告ご協賛のお願い
- ガバナー 右近八郎、ロータリー財団委員会委員長 田久昌次郎：「補助金セミナー」オンライン同時開催のお知らせ
- 県南分区ガバナー補佐 佐藤靖一、白河南RC会長 鈴木清次：インターシティーミーティング参加のお願い
- 県南分区ガバナー補佐 佐藤靖一、白河南RC会長 鈴木清次：新入会員セミナー参加登録のお願い
- 日本事務局財団：財団NEWS 2023年12月号
- 日本事務局クラブ支援室：クラブ、地区支援メッセージ
- 国際ロータリー理事 佐藤芳郎：シンガポール国際大会日本人親善朝食会開催のご案内
- 白河市長 鈴木和夫：冬期街頭献血キャンペーン御礼
- 福島民報社：広告掲載紙

■本日のお客様の紹介

鶴丸彰紀会員



皆様、こんばんは。本日、先生としてお呼びしております岡野誠先生。わたくし今ここで皆さんの前で非常に明るくしておりますが、10年程前まで非常に暗い子でした。それを見かねた松永会員が私をロータリーに誘っていただいたということがきっかけとなり、これほど明るい人間を取り戻すことができましたんですが。わたくしが白河のほうで、全く人脈も何もない状態でサラリーマンを辞めてここに住みたいと思って住んでしまったという理由で、親戚もつても何もない状態でここで会社を興しました。そんな理由で、お客さん以外とは飲みに行かないぐらいの友達が誰もいないという寂しい人間でした。そこでこのロータリーと、もう一つ岡野塾というものに非常にタイミングよく救っていただいたというところから、岡野誠さんとのお付き合いが始まった次第です。ですから、私は白河で感謝してもしきれないのは白河西ロータリークラブと岡野塾であるという感じです。岡野さんの紹介の前に、今日同じ岡野塾で学んでおります佐久間清美さんがいらっっしゃるので、こちらのほうも先に紹介させていただきます。佐久間さんは「ハッピーマジック」という会社で、ヒーリングですとかセラピーを中心にした、また霊気術こういったものを皆様にサービスして行っています。

■「ハッピーマジック」

佐久間清美様



こんばんは。「ハッピーマジック」の佐久間清美と申します。鶴丸さんのほうの声掛けで今日参加させていただきました。同じく岡野塾の塾生です。占いとかもやってまして、手相と人相と名前と言霊で占いあとその他に、霊気ヒーリングとオリジナルのセラピーで還るセラピーという本来の自分に還るという意味のセラピーをやっています。岡野塾に2期から参加してまして、今回3期で「自分の魅力発見講座」というところに参加してまして、いろんな自分の魅力を発見できるので、すごく毎月楽しく参加させていただいています。

佐久間さん、ありがとうございます。ということでこの岡野さん、4年程前になりますか。初めて福島に上陸をされたという、その講話を聴きに行ったというのが私の出会いのきっかけでございます。友人から誘われて行ったんですけれども、そのままはまってしましまして、今、佐久間さんが岡野塾2期だ3期だという話をしておりましたが、実はわたくし0期ということで。福島に上陸したばかりの頃から参加させていただいております。当初は郡山でやっておりまして、今は白河で。同時に棚倉町の教育アドバイザーですとか、こういったものも兼任されておりますので、もともと会社は名古屋なんです

が、岡野さんですね。月の半分を今は白河で過ごしていただいて、いろいろな企業のコンサルティングを含めやらせていただいているような状況です。皆さんもご存じの会社等でもご契約されてるところが結構あります。この岡野さん、今現在我々や企業に対するコンサルティングとは別に、小中高生に対する教育なども併せて行っています。前にお話したこともあると思いますけども、棚倉町の教育アドバイザーなんていう事もやっておりますし、先日は矢吹町ですとか、そういったとこの学校に呼ばれて行ったりもしております。今、岡野さんの動きの中で今日皆様に対して話していただきたいなというふうに私がお願いした内容がございます。我々企業の経営者という中で、今非常に持っている問題として人材の問題というのがあります。人材確保するにはどうすればいいのか。また、今いる人材をどう育てていって長くいてもらえるのか。ということで、今日の題材としては「人材問題の解決は教育の内製化にあり」という話をお願いしております。経営者ばかりの集まりですので、こういった内容がお役に立つのではないかと考えておりました。ではご本人にご登壇いただきたいと思っております。岡野さん、よろしく願いいたします。

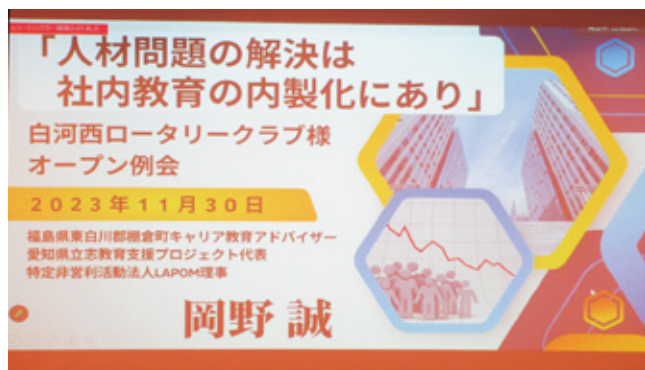
○「株式会社岡野コーティング」代表取締役

岡野塾塾長 岡野誠様

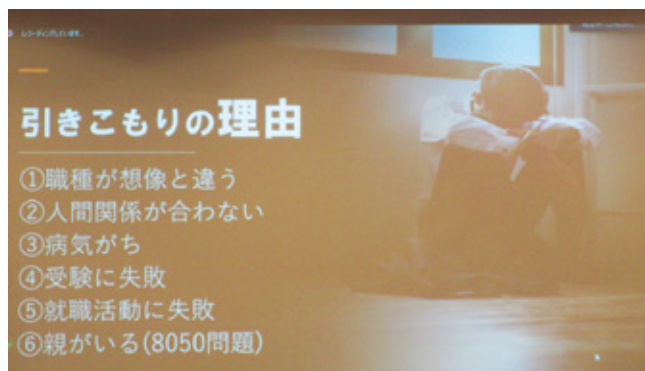


こんばんは。初めましての方と改めましての方、よろしく申し上げます。以前、鈴木会長の際に卓話をさせていただきまして、前回はそのような生い立ちをしてきたのかというお話をさせていただきましたが今日は鶴丸さんからお話があったように、今の活動のご紹介をさせていただきたいと思っております。先程、鶴丸さん4年前と仰っていただきましたが、ちょうど5年前です。2018年の11月に福島に来まして、その際に初めて会った方が福島の方じゃない横浜の鶴丸さんというすごく暗い大きな男性と出会いまして、そこからすごく元気になっていただきまして。僕は今、会社経営22年目になりまして、その会社経営の人材育成、人材確保という面でどのようにやっているかといいますと、自分自身が全国で公演会する中で、僕と働きたいという若者を見つけまして、自ら会社に連れて来て教育をするという形をもう10年間とっています。ですので、人材の不足、人材能力の開発ということには困らなくやっています。そちらを6年前愛知県でやっていたところ、福島にこちらに来る機会がありまして、福島でもその活動をということでこれまで広げてきました。今どのような段階になっているのかという話をさせていただきたいと思っております。「人材問題の解決は社内教育の内製化にある」というタイトルでお話をさせていただきます。今のいただいている肩書きとしてはキャリア教育アドバイザー、棚倉町の子供たちのキャリア教育をしているのと、愛知県で立志教育支援プロジェクトという全国の小中学校へ志を持った生き方をしようという授業をしに行く団体。そして今、全国で私立の小学校を設立しようという団体として

理事をやっております。早速ですけども、皆さんの中にご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、改めてしっかりとお話をさせていただきます。この話はいろんな所で話をしている内容でもありますので重複するかもしれませんがお聞きください。



内閣府の発表によりますと、今の15歳から64歳引きこもりの総数というのが発表されておりますが、今どれぐらいの引きこもりの方がいるかってご存じの方いらっしゃいますでしょうか。146万人という、これ昨年ですね、これが。とんでもない。引きこもりです、家から出てこない方々ですね。実はコロナの前が115万人ということで、たった4年で30万人増えています。これが今の社会の現状です。これは労働の中核をというですね、一番社会を担う15歳から64歳の方々を表しているんですけども。この総人数はですね、7500万人いると発表していますので。これ計算しますとですね、50人に1人は家にいるという計算です。50人に1人。なので、ほぼ2パーセントの方が今引きこもり状態と。これがひとつ今日のテーマである、この方々をいかに会社におびき寄せて会社で教育をするかということが人材確保の一つになるんじゃないかなと思います。



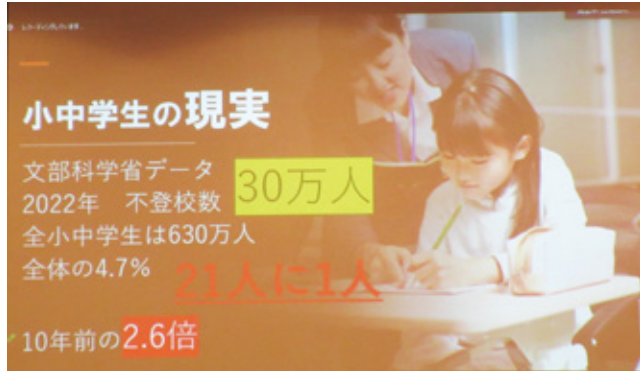
これがまず一つ目です。具体的にその引きこもりの理由というのも発表されています。例えばですね、自分が理想とした職種と想像が違うという理由であったりとか、社内の人間関係がなかなか合わないですとかですね。体が続かない。一度受験に失敗したことがある。そして、就職活動もうまくいかなかったという理由で146万人の方々がですね、今、日本では働かない働けないという状態があります。ちなみに、8050問題って今流行ってますけどもご存じですかね。親が80歳息子さん50歳で、親が生きているという前提でその親の年金で暮らしてしまっるといって問題が今、社会問題になっている一つなので、

経営者としてはやっぱりその今人材の確保はなかなかできないというのは、ひとつここに理由があるんじゃないかなって思います。ちなみに、余談なんですけども今の大学生の現実をですね、これ教育委員会様ですとか学校行事でお話をさせていただくんですけども、非常に切ない現実がですね沢山あります。

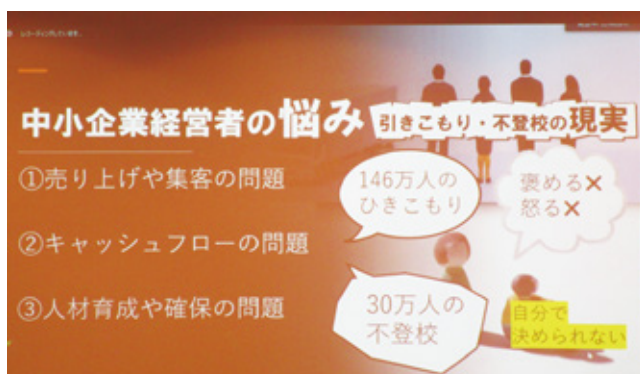


大学生が選ぶ嫌いな講義ランキングというのが出てまして、どんな講義が嫌いなのかというアンケートがあります。これ実は大学生じゃなくて小学生、中学生、高校生もダントツ一位の講義というのが勉強があります。これ何かといいますと、先生にあてられる講義です。びっくりじゃないですか。これ高校生、大学生に聞いていくと、何故あてられたくないのか。褒められたくない。要は目立ちたくないというのが今の若者の理由なんです。例えば、この皆さんの中で一人を褒められると、昔僕たちですとすごい嬉しい気分にはなったんですけど、今の若者はもうそれが嫌なんです。目立ちたくない。反対に怒られたくないというですね、何と理不尽な理由で子供たちは。なので、今の経営者の悩みを聞くと褒めても伸びないし怒ったら辞めていくという、どうやって育てたいのかという悩みが寄せられます。ちなみに、今の若者の物品を買うですね、消費の行動のランキングというのも発表されています。どのようなきっかけとか、どのような手段で商品を買うのかというもので僕らの時代は、ネットなどなかったので自ら例えばお店に行ったり、友達に聞いたりして商品を見て触って、これいいなって買ったりする時代でしたけども、今はインターネット上で有名な人が勧めているものを買うんです。要するに、インフルエンサーと言われている人たちですね。会ったこともない人達ですよ。その人達を信じてですね、商品、化粧品やら消耗品を買っている。これが今、インスタグラム、tiktokを運用している若者たちの消費行動です。なので、ちょっと切ないといえますか。これどういう裏側隠れているかというと、自分の意志で決めることができないと。これは今の棚倉町のキャリア教育にもあります自分の人生は自分で決めるという本質から行くと、なかなかこう自分で決めることができない子供たちが増えてきているというのが現状です。ちなみに、「ほめは圧」というですね、「ほめ」＝「圧」というこれ今キーワードになってまして、10代の子供たちの中では当たり前なキーワードです。なので、どんどん褒めていくと子供は圧力となってそれが苦しくなって、中には不登校になっていく子供たちも今増えている。なの

で、教育がすごく難しく歪んできているというのが、今の現実です。ですので、もう学校ではなく社内でいかに人を教育していくかを考えていかねばならないということです。



次に、僕が今小中学校の皆さんを教育させていただいてる現実をお話させていただきます。こちらも昨年の不登校数が発表されております。今の小中学生は全国でどれぐらいの数、学校行けてないのかと。大体先程、15歳から64歳の引きこもりの人たち146万人でした。小中学生の不登校、学校へ行けてない数字はどれくらいか。30万人に膨れ上がっている。学校に報告が来ているだけの数字ですので。僕も棚倉町だけではなく、今栃木県、愛知県から沢山の問い合わせをいただいて、引きこもり不登校のご相談にのってますが、学校に報告をしていない数もあるので、これ以上確実にいると思います。ちなみに、全小中高生がですね630万人ですので、先程の引きこもりと一緒に計算をすると全体の5パーセントにあたる。なので、クラスに一人がもう今は学校に行っていないという時代です。これは10年前と比べると約3倍近くになってきている数字で、今日本の文部科学省も学校の教育も見直ししなければならないということで、学習指導要領の改革が行われています。ですので、通常であれば小中高大と社会教育を受けてきた若者が社内に入って即戦力として働いてくれるという世の中ではなくなっている。いかにその社内で、この社会教育をしなければならないのかということを考えないといけない時代になっています。



ちなみに、僕も22年目の中小企業の経営者として22年間ずっと悩み続けている悩みというのは、今のコロナであっても、リーマンショックであっても、昔のバブルのあけた時代でも変わっていない。経営者の本質的な悩みというのは3つ存在します。皆さん、どんな悩み、日頃

毎日毎日悩んでいる部分は、例えば経営者の業種、業規模を問わずですね、悩み事でいいますとまずは会社の業績です。売り上げ及びそのお客様の集客を、未来永劫どのようにやっていくべきなのかというのが一つ目です。二つ目は、潤沢なその資金をどのように回していくのかというキャッシュフロー。そして最後がですね、この売り上げとキャッシュフローを作る人材の確保をどのようにしていくべきかということが経営者の本質的な悩みなんじゃないかと思います。これは沢山のこれまで経営者の悩みをお聞きしてきました、この3つに集約されていると僕は思っています。ですが、その売り上げ、キャッシュフローを5年後10年後30年後作っていく人材が今もうストップしている。いい人材がもう入ってこないという社会だとするとこの先の10年後20年後の中小企業はどうなるのかということ、僕たちは一生懸命考えなきゃいけないのかなと思っています。実際、先程言った146万人がもう働いていない。そして、その5年後10年後社会に出てくるはずの子供たちも学校教育を受けていない。褒めても怒ってもいけない。そして、自分で決めることもできていないという子供たちが合わせると200万人くらい日本には溢れかえっています。それをもちろん日本の教育として、学校も教育委員会も文部科学省も一生懸命これを改革しようとやっていますが、教育の限界があります。ですので、我々経営者が教育にちょっと踏み込みながら会社経営を改革していかないと、今人材がこう安定していても10年後というのが非常に真っ暗な人材確保の時代になると思います。ですので、社内であらゆる子供たちが育つ教育できる完備をしていくというのが、ひとつ経営者の使命なんじゃないかなと思います。具体的にこの活動と、そんな子供たちの現状と経営者の悩みを具体的にどのように解決して、どのように繋げているのかというお話をしたいと思います。先程言った30万人の子供たち。30万人も僕も見えてはいませんが、今沢山の子供たちの家に行ったり、事務所に来たりして支援を教育をさせていただいています。



まずは、子供たち自分自身を知ってもらうという教育から自分にはこんな才能があったんだとか、自分にはこんな力があったんだという、まず自分を知ってもらう。そして、子供たち意外にこういういろいろな仕事や職種があるということを知らないので、沢山の仕事や職種を経験させるという、一緒に連れて企業訪問みたいなのをやったりしています。そして、その企業にいる大人などと触れ合って、いろいろな人生があるんだなって。こ

うやって生きていくと楽しそうだなみたいな社会教育を今やらせていただいています。今は訪問をやっています、来年の春から全寮制の就業体験といいますが、というやつを始めることになりました。こちらにはまだ記載できていないんですが、郡山の田村町という所をご存じですかね。こちらに「うつみね遊学体験パーク」という50人くらい宿泊ができて、畑もありまして、お風呂、そしてバーベキュー。そういう場所が、今使われていない場所がありまして、そちらと僕が業務提携をすることになりまして、福島だけじゃなく全国の子供たちをそちらに呼び込みをしまして、その中で僕が人材開発、社会教育をします。その子供たちを福島の企業に連れまわして、リアルキッズニアみたいな活動を来年の春から始めてまいります。もちろん、今お母さん方も就職に困っています、そのお母さんたちの今、就職支援、サポートなどもやっております。たまたま僕のご相談いただくご家族の8割はシングルマザーの方が多くいんですね。僕はもちろん選んでいません。選んでいませんが女性は嫌いではないので、沢山女性が来ていただくことは凄く嬉しくてですね、なのでそのシングルマザーの方をどのように一人で生きていけるのかということもプランニングしながら面倒を見てくださる企業を探していると。そして、私は22年の経営者の経験もありますので今、全国で12社の教育顧問をさせていただいてまして、社員の一人一人の自分を知るという特性、職種、そして人生と同じような教育を社内ですべてさせていただいています。これをドッキングさせていくのが今後の僕のその仕事かなと。スタッフ研修だけではなく、その企業に必要な人材が沢山僕の周りには存在しますので、僕が能力を開発してお繋ぎをします。僕、経営者としてひとつ疑問に思っていたというか、何ですかね、こうしてほしかったという要望としては、いい人材を紹介してくださったり、繋いでくださる会社さんとか沢山今まであったんですけども、紹介してくださったり繋いでくださるだけで、その後のフォローというのはいまいち続かなかったりした経験がありました。なので、僕は僕が一人一人面談して育てた人間をお繋ぎして、その退職しないようにずっとその社内ですべて教育していくという体制を取っています。ですので、このドッキング業といいますが、それはなかなか全国でも少ないんじゃないかなと自信をもってやっています。先程、鶴丸さんのほうからも出ました岡野塾というものがあるかといいますが、要するに僕一人ではその子供のアドバイス、その親御さんの相談、そして経営者の相談、そしてスタッフの教育というのは、僕一人ではもう今、回らなくなってきておりまして、それをお手伝いしていただいたりとか、それを仕事としてやっていきたいという方々をお呼びしまして、勉強して一緒に手分けをして仕事として今後やっていきたいと思ひ岡野塾というのを今、福島で活動しています。今、3期生で40名くらいいらっしゃいます。来期は福島とあと栃木のほうで開催をすることになってまして。なので、子供たち不登校の需要、悩んでいる親御さんの需要は、本当にもう絶え間なく朝から晩までリンリンランラン鳴る状態です。ですけども、教育する手助けする人間が全然や

っぱり足りていないのと、就職を受け入れるよと言ってくださるその企業数がまだまだ僕の周りには足りていないので、その二つをもう少し増やしていけば本質的な今のこの社会の問題も解決していけるのかなと思っています。名前は真中に「夢活ジョブタウン」という名前でも来年の春から、要は夢見て楽しく働ける町作りみたいなイメージで。敷地面積は6千坪ありまして、その中で沢山の体験をしまして、沢山の人間を社会に輩出していく、そこで自分のなりたい人生を決める練習をして、ちゃんと決める力を身につけてから就職活動に送り出すというプランをしています。正式に来年の春からNPOとして活動させていただきます。ですので、ただただ人材不足だけではなくて、この子供たちの支援など是非ご協力をしていただけるといふ企業さんいらっしゃいましたらお力を貸していただきたいですし、もちろんただただの資金はいただきたいという話ですけども、資金だけじゃなくても全然大丈夫です。一緒にその50人くらい入るセミナールームがありまして、僕のイメージこう毎週、いろんな経営者さんと呼んで子供たちに触れ合いをさせたいいんですね。経営者ってこんなに楽しいんだぞという。そして、こんな経営者になりたいとか、こんな経営者の会社行ってみたいとこう言わせたい場所にしていきたいので、どんどん僕だけじゃなくそういう大人に触れさせてあげたい場所にしていきたくと思います。ですので、またどこかでお会いしましたり耳にしましたら、是非一度遊びに来ていただきまして、子供たちなどお母さんたちなどですね、触れ合っていたらいいとお力貸していただけたらと思います。急ぎ足でしたけども、これにて僕の今のやっている活動と皆さんへのお話は終わりたいと思います。ありがとうございます。

■御礼の挨拶

佐藤幸彦会長

岡野先生、大変ありがとうございます。本当に日頃聞けない話を聞かせていただきまして、気付かない点もいろいろありまして、今後内製化、モラルもちょっと考えていかなければいけないかなと考えていました。また、私ちょっと考えてなかったんですが、ご指名一番多かった感想を述べてください。

運天直人会員

皆さん、こんばんは。岡野先生、今日はありがとうございました。私も商売が人材派遣業を営んでおりますので、人材に関わる人材を生業としている仕事をさせていただいていますので、今日のこのお題本当に楽しみに勉強になるなと思って聞かせていただきました。うちのほうもやはり会社の中で人材教育をしていく、今できてはいませんが。うちは人材派遣業ではなくて人材育成業をやりたいということを目指して掲げて起業してましたので、まさに教育の内製化ということはすごく私たちの喫緊の課題かなと思わせていただいています。まだまだですが、今日も岡野先生の話をお聞かせいただきながら、今後繋げていければなと思っております。ありがとうございます。